

ゴザンク2

THE JUON から始める
ジャパニーズホラー
松室麻衣の軌跡と奇跡
海外連続ドラマを
DVDで一挙に観る幸せ



2008 春



このフリーマガジンは、『ぎゃふん』創刊号の続きです。

え～、みなさま、たいへん長らくお待たせいたしました。これより『ぎゃふん』第2号を始めます（場内拍手）。ご存知ない方のために、念のために申し上げます、『ぎゃふん』第2号は、『ぎゃふん』創刊号の続きであります（場内ざわめく。「あたりまえじゃねえか」の声）。

……ゴホン。え～、創刊号の発行から、時の経つこと、約7年。みなさまのなかには、こういう疑問を持つ方もいらっしゃるでしょう。「なぜ、これだけのものを作るのに7年もかかったのか」と。理由を簡単に申し上げます、このような紙媒体のミニコミ誌をわざわざ手間と時間とお金をかけて作る意義というのをずっと考えていたのです。実際は、創刊号の発行直後から、第2号の制作は始まっております。そして、約3分の1程度は、完成していたのです（場内ざわめく）。

創刊号で、私たちはこんな疑問を投げかけました。「このインターネット時代になぜ紙のミニコミ誌を作るのか」と。この問題は、われわれの中で燻り続け、澱み、腐り、完全に袋小路に行き当たってしまいました。当時は、インターネットの個人サイトが頭にあつたのですが、時代は少し変わりました。巷では、ケータイ小説や、ウェブマガジンが取りざたされています。しかし、これらの新しい表現媒体に関わってみてわかったことは、「誰もパソコンやケータイでは本は読まねえんだ、くそっ」ということであります（場内激しくざわめく）。

……静粛に、静粛に願います。「本を読まない」といっても、ケータイコミックは別です。これは毎年、倍々ゲームのように、売り上げが伸びている。しかしながら、小説や実用書をパソコンやケータイユーザー向けに配信した試みは、いまだビジネスとしては成立していないのです。ここから「本は紙でなければならぬ」という結論が導き出されるのです（場内ざわめく。「そんなことはいいから早く始めろ！」という声も）。

……え～、少ししゃべりすぎたようです。予定の時間をオーバーしてしまいました。とにかく中身を見ていただくことにしましょう。御託を並べるのは、そのあとにいたします。では、ごゆっくりお楽しみください。

ぎゃふん2

2008 春

出版者 米田政行
発行所 Gyahun 工房
mail@gyahunkoubou.biz

2008年3月3日 発行
2022年3月3日 デジタルリマスター版 発行

もくじ

004 THE JUON からはじめるジャパニーズホラー

THE JUON / 呪怨 ● 呪怨 バンデミック
呪怨 ビデオオリジナル版 ● 呪怨2 ビデオオリジナル版
呪怨 劇場版 ● 呪怨2 劇場版 ● 感染 ● 予言 ● ノロイ ● 輪廻
バイオハザード 4 ● サイレン ● サイレン2 ● 怪 ~ ayakashi ~ 化猫



018 松室麻衣の軌跡と奇跡

Dear... ● Process ● eternal dream ● DAYDREAM ● DAYDREAM 2
dream live 2002 "Process" ● dream world 初回限定 BOX
dream live 2003 ~ dream world ~ ● アイラブドリームワールド ● ID
dream party 2 ● 777 ~ Best of dream ~ ● 777 ~ another side story ~
Destiny/LOVE-1 ● DRM

026 海外連続ドラマをDVDで一挙に観る幸せ

24 -TWENTY FOUR- ● アリー my Love ● フルハウス ● 宇宙船レッド・ドワーフ号

032 [空想科学ラブ・サスペンス小説] 人形焼き 作・夜見野レイ



002 このフリーマガジンは、『ぎゃふん』創刊号の続きです。

039 このフリーマガジンは、「ぎゃふん工房のブログ」をまとめたものです。

ぎゃふん工房の蔵

025 ZARD Golden Best ~ 15th Anniversary ~

031 GONIN コンプリートボックス

037 依存症の女たち ● 依存症の男と女たち

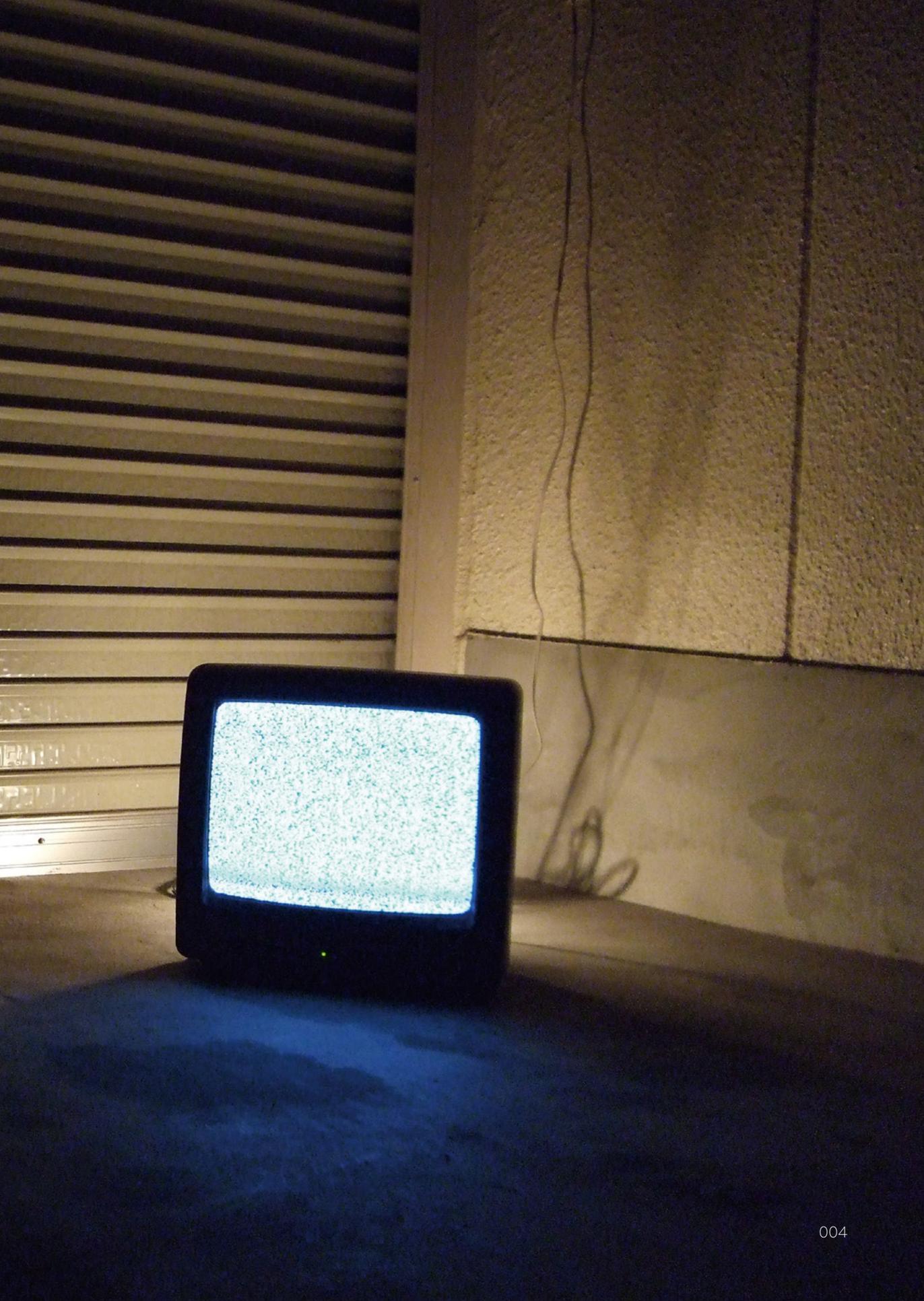
036 ケータイ小説を夜見野レイが展開中!

038 ぎゃふん工房日誌



COVER
photograph and illustration: YONEDA Masayuki
design: GYAHUN_Koubou
location: KOMAZAWA KOUEN, Tokyo

※本誌に掲載している商品の価格はすべて税込です。



THE JUON から始める

ジャパニーズホラー

ホラー映画というのはどうしたってモノ好きが観るものだ。

あまつさえ日本のホラーとなれば、市民権を得るなんて考えられない。

でも、それは今や昔の話。

「ジャパニーズホラー」は世界の人々にとって日本を代表する文化のひとつなのだ。

その魅力を日本人のわれわれが知らないのは悲しいではないか。

だから入門しよう。THE JUON から、ジャパニーズホラーの世界へ。

ハリウッドに滲出した伽椰子の呪い



THE JUON / 呪怨

【作品データ】

監督：清水崇

脚本：ステイブーン＝サスコ

出演：サラ＝ミシェル＝ゲラー

ジェイソン＝ベア ヒル＝ブルマン

【DVDデータ】

ジェネオン エンタテインメント

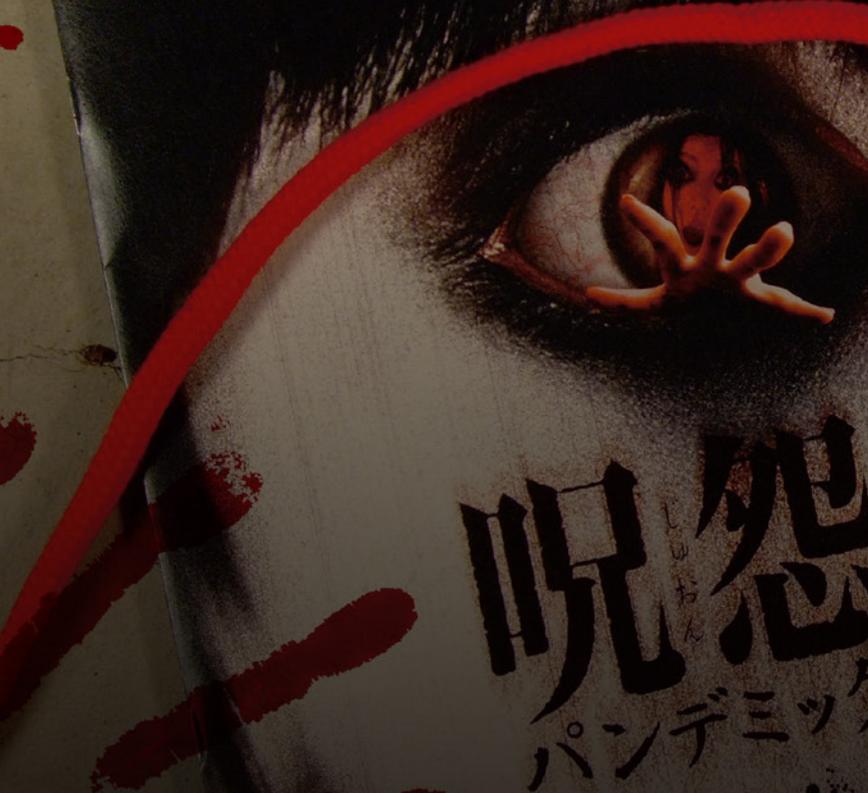
3990円

シリーズのファンとしては複雑な心境の作品

そもそも「呪怨」シリーズは、ハリウッド映画に代表される「基本的な映画の手法」から解放されているところに特徴がある。そんな作品をハリウッドで作ってしまったえば、もはや「呪怨」ではない、と「片隅」からのシリーズを見守っている者としては考えてしまう。オリジナルの監督みずから手がけている映画だから、純粋なハリウッド映画とは言えないし、「呪怨」らしさも残っているとは思うのだが、制作の動機からして、アメリカ人、つまり「呪怨」初心者向けに作られたとみるべきだろう。「次はどんな手で怖がらせてくれるんだろう」というビックリ箱を開けるような感覚で見ることがこのシリーズの楽しみ方だが、この作品はリメイクということもあって、シリーズを見続けている者には先の展開を簡単に予想することができるため、いまいち怖くない。「ジャパニーズホラーがハリウッドで評価された」というのは事実だとしても、「これは純粋な「呪怨」ではありませんよ」と言いたくなるような、シリーズのファンは複雑な心境に陥ってしまう作品だ。

といっても、それはあくまで「呪怨マニア」が見た場合の話であって、ホラー好きでなくても、映画が好きならであれば、なかなか楽しめる作品になっているように思える。その意味で、清水監督の演出は「誠実」であるときとさえ言える。むしろ、ホラーファン以外の人にオススメしたい作品でもあるのだ。

TOHO CINEMAS



呪怨
しむたん
パンデミック

A FILM BY
SHIM

呪怨 パンデミック

[作品データ]
監督：清水崇
脚本：ステイブンス＝サスコ
主演：アンバー＝タンブリン
アリエル＝ケベル
[DVDデータ]
エイベックス・マーケティング
4935円 ※2008年3月28日発売

足掛け10年の
『呪怨ウオッチャー』が
この映画を観ると……

ハリウッド・リメイク版の2作目にあたる本作は「前作より恐怖倍増。伽椰子の呪いもパワーアップ」と謳われているが、なに言ってる。日本版「2」のほうが数倍怖いわいっ」と足掛け10年の『呪怨ウオッチャー』としては反論してしまっ。

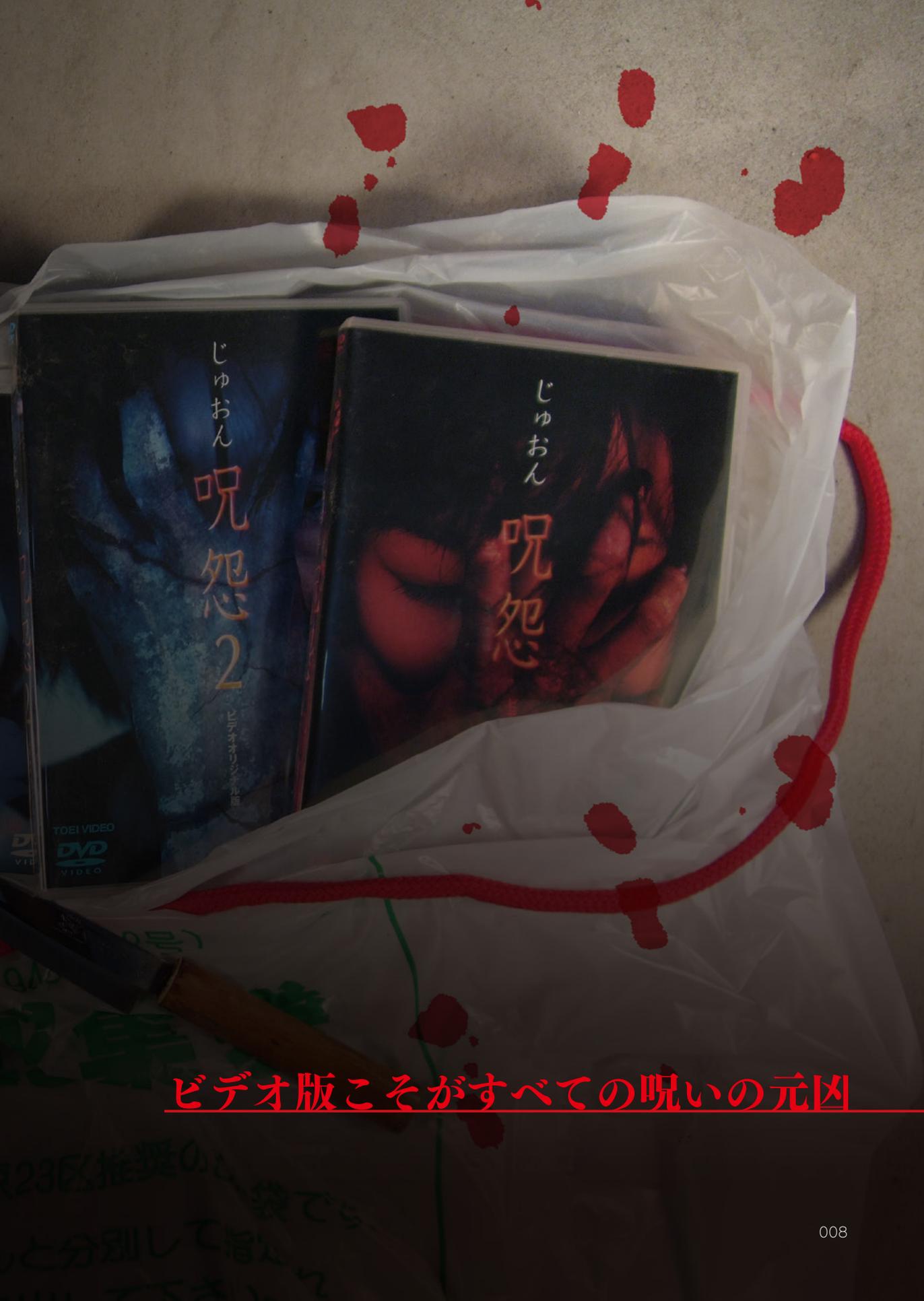
ここへきて、日本版とハリウッド版の違いがはっきりしてきた。日本版は、ひたすら恐怖の追究、

ハリウッド版は映画としてのたまたまの追究である。日本版、とくに第2作目の恐怖演出は、かなり映画としてはトリッキーであり、それがそのまま、時空さえも操る伽椰子の恐るべき呪いの表現に直結している。一方、ハリウッド版は、あくまで「万人向けホラー」という体裁だから、(日本版に比べれば)「普通」の演出である。しかし、映画としての重厚感、ハリウッド映画ならではの、とくにスタジオに作られた「家」の存在感は、日本版を圧倒している。

では、『呪怨ウオッチャー』として、この『呪怨 パンデミック』で見るべきポイントとは何か。まずは、『伽椰子の呪いの源泉ともいうべき』『伽椰子の少女時代』のエピソード。呪いとは、人知を超えた、理屈のつかないところが怖いわけだから、呪いについてあれこれ因果関係が語られてしまうのは、(それほど明確なものでないにしても)恐怖が半減してしまうというパラドックスもあるが、かといって、わけのわからないまま伽椰子の呪いを発動し続けるのは、作るほうも観るほうも退屈してしまうだろうから、これはこれで好ましいことであるはずだ。

もう1点は、『パンデミック』の部分である。アメリカ人がアメリカのアパートで遭遇する怪現象のシーン、日本人の監督が日本の撮影スタジオで作ったというのは、やはり感慨を禁じえない。あの「片隅」-4444444444444444がここまで(拡大)するなど、誰が想像できただろうか。

ところで、『第3のキャラクター』が登場した日本版、『あの家に入った者が呪われる』という法則が早くも払拭されてしまったハリウッド版、いずれも続きが気になるラストになっているわけだが、さて、先にパート3が公開されるのは、どっちだ？



じゅおん
呪怨2
TOEI VIDEO
DVD
VIDEO

じゅおん
呪怨

ビデオ版こそがすべての呪いの元凶

呪怨

劇場版

紙一重である

市川由衣

ホラー女優が競演するビデオ版「呪怨」

呪怨 ビデオオリジナル版 呪怨2 ビデオオリジナル版

【作品データ】
監督・脚本：清水崇
出演：栗山千明 三輪ひとみ 三輪明日美 大家由祐子
【DVDデータ】
東映ビデオ
※入手困難

「呪怨」の怖さをものとも感じることができているのは、実はシリーズの原点である「片隅」(4444444444)からもしれない。なぜ、それが起こったのか、そのあとどうなったのか、というのはいまも語りきれない。

「呪怨」の怖さは 日常茶飯事的な恐怖

「恐怖」と「笑い」は紙一重である。どんなジャンルの映画でも同じことが言えると思うが、とくに日本のホラーは、観る人を選ぶ。言い換えると、同じ作品を鑑賞しても、怖がる人と、まったく怖がらない人の両方が存在するのだ。これは、「恐怖」と「笑い」は紙一重である」という法則に関係している。清水崇監督は「ビデオ版はホラーマニアなら怖がつてくれると思うけど、マニアでない人は笑ってしまうかもしれない」と語っている。つまり、「恐怖」とか「笑い」は、演出によって、いくらでも操作可能だということだ。(ちなみに「同様なことは、Mr.ビーン」のローラン・アトキンソンも述べている。)

「恐怖はいつでも笑いに転化する」というのは、この「呪怨ビデオオリジナル版」のDVDでも確認可能だ。オーディオコメンタリーでは、伽椰子が階段を這って下りてくるといって、もともと怖い、有名なシーンで、清水監督と豊島圭介監督が大爆笑していて、見ているほうもつられてしまう。「呪怨は操作可能」なゆえに、ビデオオリジナル版では、目一杯怖く、映画版第1作では、より多くの人に楽しんでもらうために、少し恐怖を意図的に抑えているというわけだ。

「呪怨」の怖さをものとも感じることができているのは、実はシリーズの原点である「片隅」(4444444444)からもしれない。なぜ、それが起こったのか、そのあとどうなったのか、というのはいまも語りきれない。

「呪怨」はジャパニーズホラーの流れのなかにある作品であるが、伝統を受け継いでいる部分、伝統に反している部分の両方がある。「心霊実話もの」という言葉に象徴されるように、「日常生活の一部を切り取ったようなリアリティ、いまもどこかで起こっている」「心霊現象」のような感覚だ。一方、伝統を壊しているのは、「幽霊を見せすぎている」「点だ。画面の端にちらりと映る幽霊、暗闇には一と浮かぶ顔、というものがこれまでのジャパニーズホラーの幽霊だった。」

「呪怨」はジャパニーズホラーの流れのなかにある作品であるが、伝統を受け継いでいる部分、伝統に反している部分の両方がある。「心霊実話もの」という言葉に象徴されるように、「日常生活の一部を切り取ったようなリアリティ、いまもどこかで起こっている」「心霊現象」のような感覚だ。一方、伝統を壊しているのは、「幽霊を見せすぎている」「点だ。画面の端にちらりと映る幽霊、暗闇には一と浮かぶ顔、というものがこれまでのジャパニーズホラーの幽霊だった。」

「呪怨」の怖さをものとも感じることができているのは、実はシリーズの原点である「片隅」(4444444444)からもしれない。なぜ、それが起こったのか、そのあとどうなったのか、というのはいまも語りきれない。

「呪怨」はジャパニーズホラーの流れのなかにある作品であるが、伝統を受け継いでいる部分、伝統に反している部分の両方がある。「心霊実話もの」という言葉に象徴されるように、「日常生活の一部を切り取ったようなリアリティ、いまもどこかで起こっている」「心霊現象」のような感覚だ。一方、伝統を壊しているのは、「幽霊を見せすぎている」「点だ。画面の端にちらりと映る幽霊、暗闇には一と浮かぶ顔、というものがこれまでのジャパニーズホラーの幽霊だった。」

「呪怨」はジャパニーズホラーの流れのなかにある作品であるが、伝統を受け継いでいる部分、伝統に反している部分の両方がある。「心霊実話もの」という言葉に象徴されるように、「日常生活の一部を切り取ったようなリアリティ、いまもどこかで起こっている」「心霊現象」のような感覚だ。一方、伝統を壊しているのは、「幽霊を見せすぎている」「点だ。画面の端にちらりと映る幽霊、暗闇には一と浮かぶ顔、というものがこれまでのジャパニーズホラーの幽霊だった。」

つづきは正式版でお楽しみください。

